

301 のSaaSを利用する

マネーフォワード

CIO

が取り組んだSaaS管理手法とは？



はじめに

近年テレワークをはじめとした企業の働き方が大きく変化し、DXの一環としてSaaSを利用する企業が年々増えています。

一方で、SaaSを数多く導入している企業では、増え続けるSaaSについてどのように管理すべきかベストプラクティスが無い状態です。

そこで、本資料では300個のSaaSを利用する株式会社マネーフォワードでの実際の運用を共有し、SaaS管理課題を解決できるサービスもご紹介します。



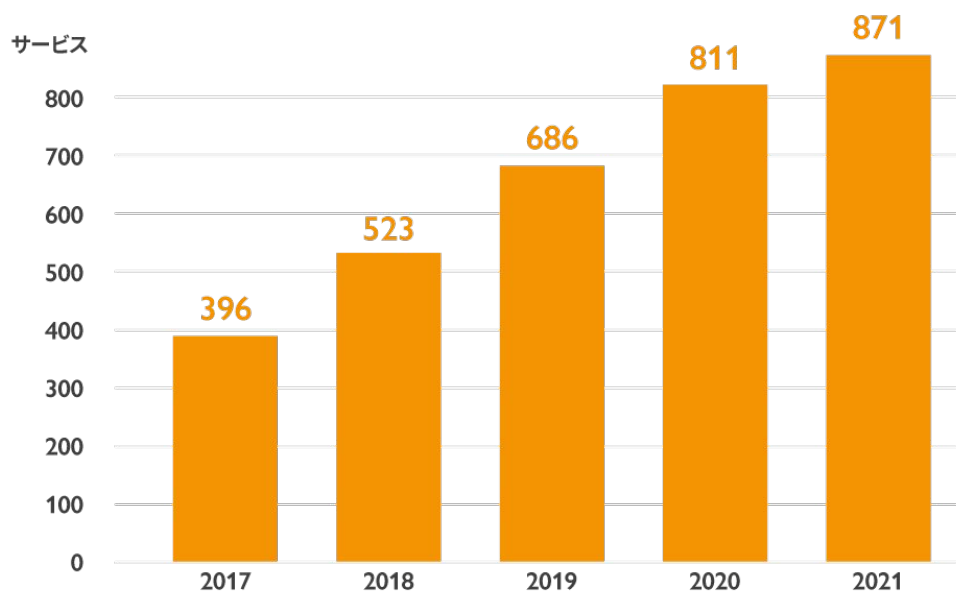
- P.3** SaaS利用企業が増加
- P.4~5** SaaS管理の実態
- P.6~7** SaaS管理の方向性
- P.8~10** SaaS管理の進め方
- P.11~13** SaaS管理の在り方(中央集権型と分散管理型)
- P.14~17** 「これまで」のマネーフォワードの SaaS管理
- P.18~28** 「これから」のマネーフォワードの SaaS管理
- P.29** ホワイトペーパー監修者の紹介
- P.30~38** (SaaSの可視化と管理対応を実現)
マネーフォワード Admina とは



SaaS利用企業が増加

近年では利便性や効率性の向上のため、SaaSを導入する企業が増えています。

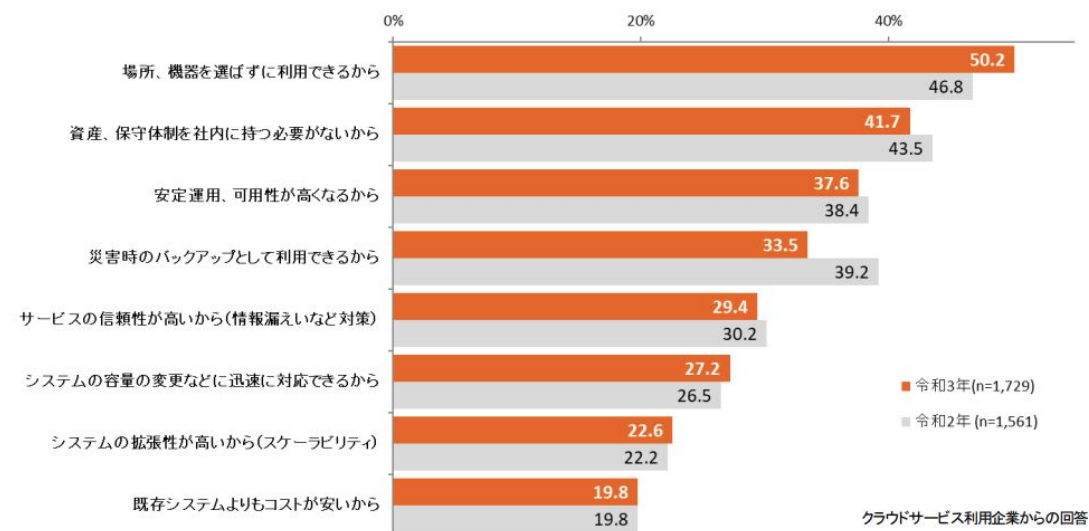
※SaaS (Software as a Service) ... 従来パッケージソフトとして提供されていた機能が、クラウドサービスとして提供される形態のこと



参照: スマートキャンプ株式会社『SaaS業界レポート2021速報版』

SaaS利用の需要に伴い、日本国内で普及されているSaaSの提供数は2017年から5年間で2倍以上に増えたと考えられる

図表4-4 クラウドサービスを利用する理由 (複数回答)



参照: 総務省『令和3年通信利用動向調査』

業務を行う際の利便性や、事業を運営する上での効率性を求めてSaaSが利用されている



SaaS利用における課題

SaaS管理の実態

■ IT部門が知らないSaaSの増加



■ IT部門が知らないSaaSの退職者ID

⇒ 全社向けのSaaSなどはIT部門にてしっかりと管理されている

⇒ 特に部署で管理している場合、退職者削除のプロセスが存在しない場合があり、Google analyticsなど売上等の重要なデータが入る一方、外部パートナーがアカウント作成されやすく、棚卸しがされづらい状況

■ 約40%の無駄なライセンス



US/UK waste total: \$34 billion

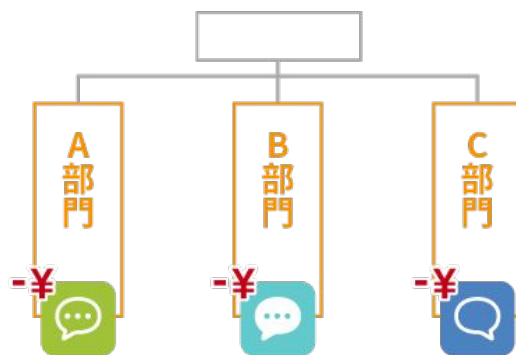


SaaS管理の実態

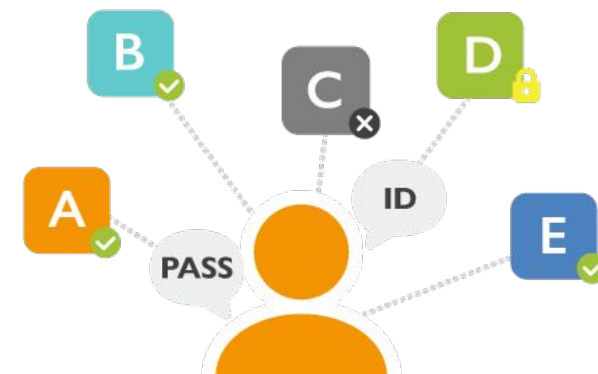
コスト課題



- 利用されないSaaSやアカウントの放置



- サービスの重複利用



- アカウント管理の人的労力

セキュリティ課題



- 退職者アカウントの消し忘れ



- シャドーIT



- シャドーID

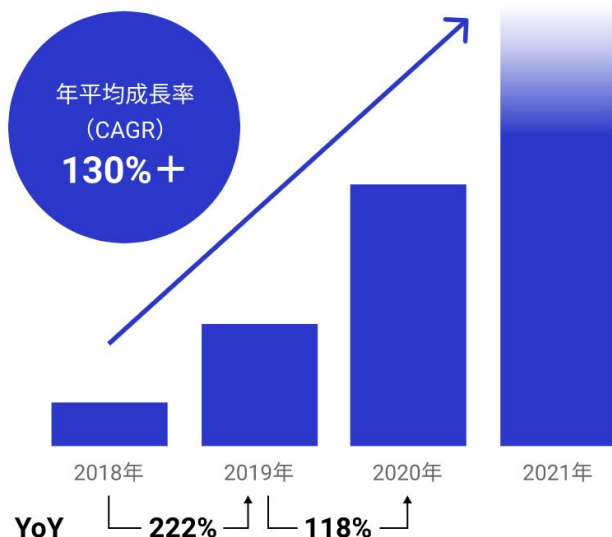
SaaS管理の方向性

SaaS管理は出口を意識する時代に

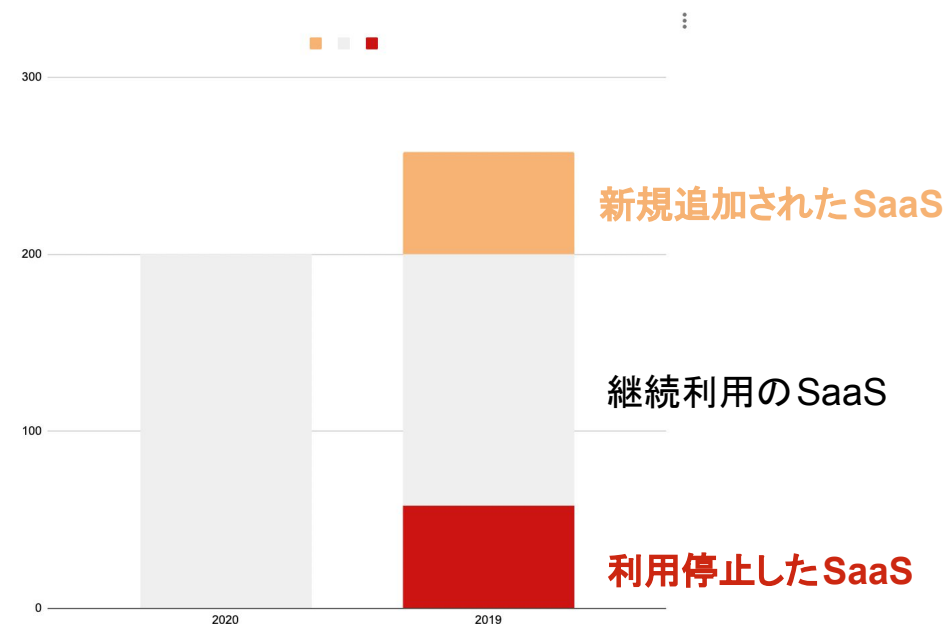
日本国内の1社あたりの利用SaaS数は拡大を続けており、2018年から2021年の年平均成長率は130%に達し、急激な増加速度で利用数が拡大している。また、利用しやすく解約もしやすいのがSaaSの特徴であり、SaaS自体の入れ替わりも顕著で約30%のSaaSが利用を停止されるというデータもある。そんなSaaSにおいて、一般社員も自らの業務を効率化するSaaSへの情報にリーチできる昨今、もはや利用を抑制することは難しく、如何に不要なSaaSの利用を適切に止めることができるかが今後のSaaS管理のキーファクターとなると予想される。

増加するクラウドサービスの利用社数

【Japan】 Azure AD app gallery monthly active users Jan 2018 - Jan 2021.



入れ替わりの激しいSaaS利用



参照: THE 3 BIGGEST SAAS TRENDS IN 2020 | THE BLISSFULLY REPORT <https://www.blissfully.com/saas-trends/2020-annual-report/>

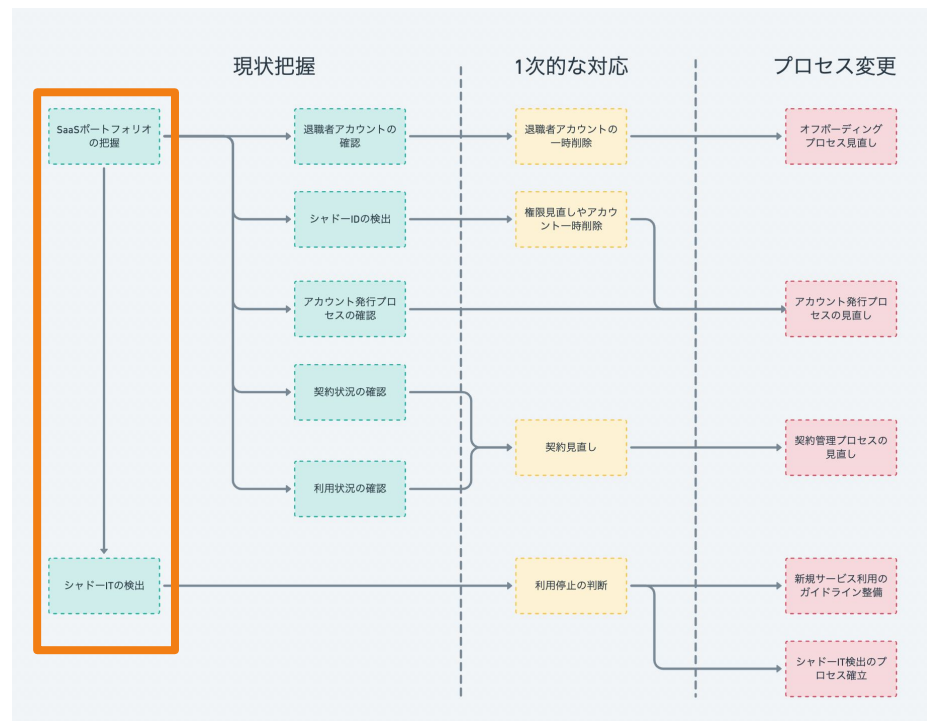
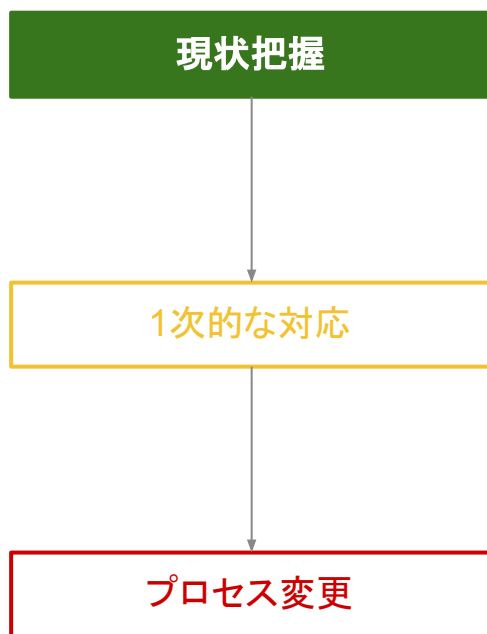


SaaS管理の進め方

SaaS管理ロードマップ

ライセンスを見直したり、不要なアカウントを削除する、ワークフローなどのプロセスを見直してもっと効率化的に業務が進むよう最適化したい等、SaaS管理において実施すべき事項は多い。しかしながら、**SaaS管理における全体最適化の為に最初の実施すべきは現状把握**からである。自社ではIT部門で管理しているSaaSはどれくらいあるのか、部署で利用されているSaaSの把握、退職者アカウントは残を確認する、シャドーITの存在有無、アカウント発行削除のプロセス、契約状況や利用状況等、**現状を把握せずに一次的な対応やプロセス変更を実行してしまうと部分最適に陥り、適切なSaaS管理を実施することは難しくなる。**

★最初に取り組むのは現状把握から



SaaSポートフォリオの把握

マネーフォワードを例にすると、iDP/iDaaSでSSOを実施しているSaaSは約10%、IT部門がExcel等の表計算ソフトで管理しているのが約10%、残りの80%は部署単位で利用がされているものやシャドーITというSaaSポートフォリオであった。



SaaSポートフォリオの把握方法の例



決済履歴の把握

経理部門からSaaSやITツールの決済履歴の情報を受け取り、情報システム部門が把握できていない利用がないかを見つける



全社員アンケート

業務の中でどのような機器やサービスを利用しているかアンケート結果から探し出す



社内ネットワークのアクセスログ

社内ネットワークのログ上で、各種端末情報やアクセス状況を確認する



Google Workspace

※有料版Googleアカウントの利用企業のみ

管理画面上で各社員のユーザー情報内にある「接続済みのアプリケーション」から、Googleアカウントを用いてどのような他のアプリケーションやサービスにログインしているかが分かる



CASB (Cloud Access Security Broker)

複数のクラウド・サービスを一括して管理できるソリューションの総称。導入することで利用状況の可視化や脅威の検出防御を行えて、全体に対する統一的なセキュリティ・ポリシー適用を可能にする



SaaS管理の在り方

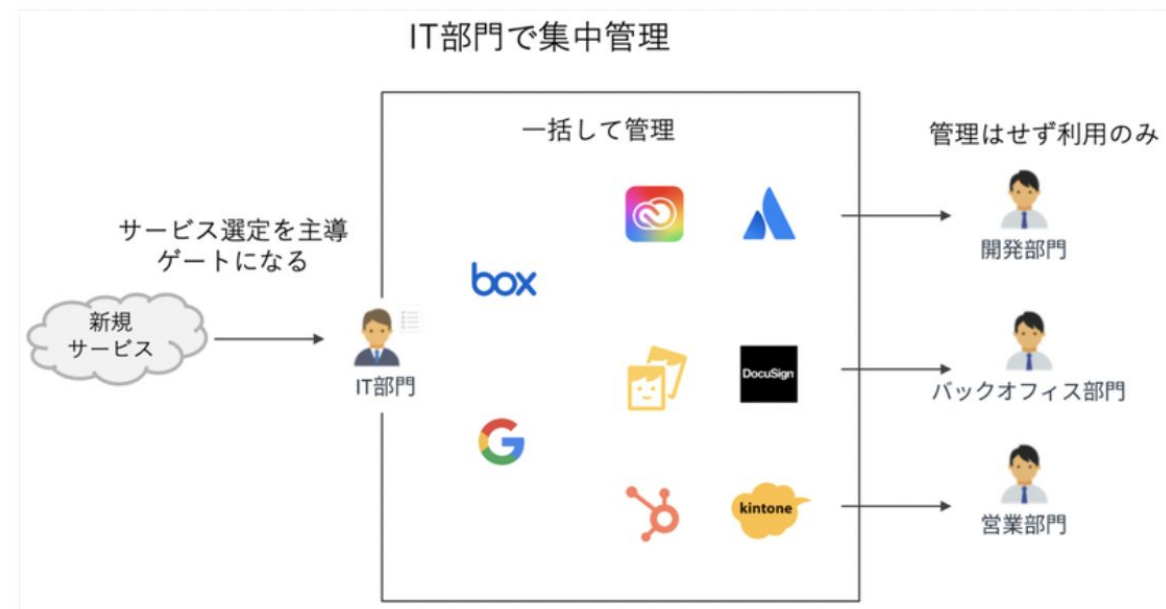
(中央集権型と分散管理型)

SaaS管理の現状

従来のオンプレミス型の構造だと、サービス導入に専門性が求められ、IT部門による中央集権的な管理手法がスタンダードであった。しかしながら、昨今のSaaS利用の普及とIT部門の慢性的な人員不足により、部署単位での導入も増えてきており、業務のスピードとセキュリティとのバランスを鑑みた管理体制についての検討をせざるを得なくなってきました。



OR



メリット:
各部署が自律的に利用サービスを決定するため、最適なツールが早く選定されるためIT部門の負荷が低い

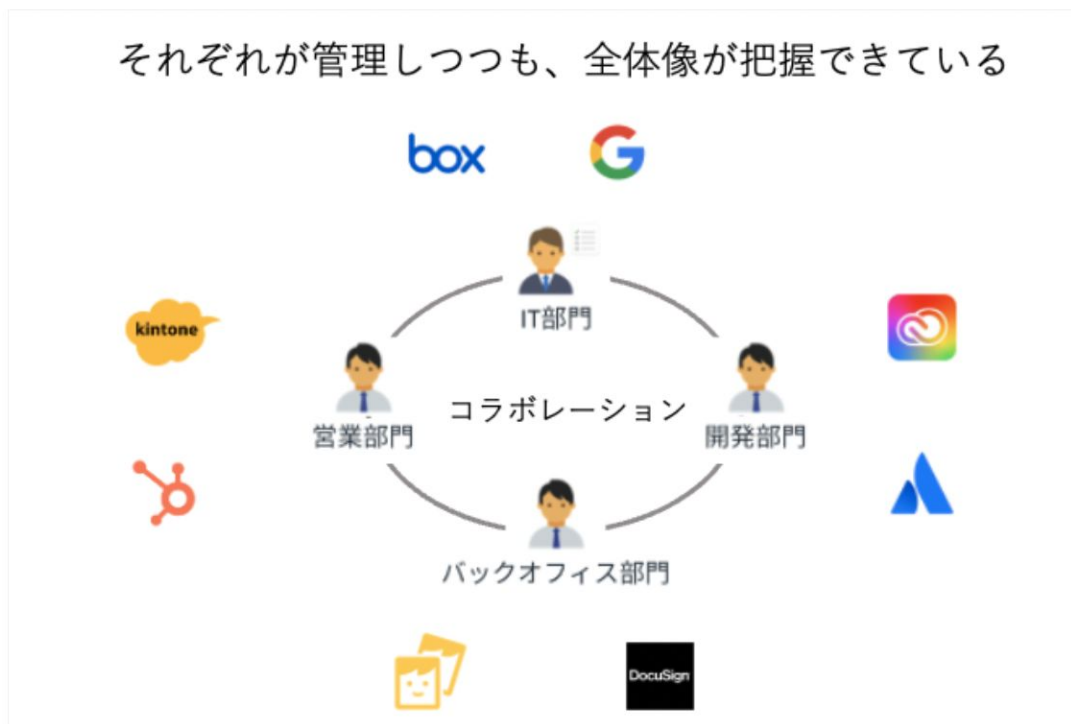
デメリット:
管理が分散し、セキュリティリスクが高い、ツールが重複し全体最適がなされない

メリット:
IT部門が一括して管理するため、把握しているツールの管理状況が良い

デメリット:
新規導入が進みにくく意思決定のスピードが遅い、シャドーITを産みやすい

2022年からはコラボレーション時代の到来

業務のスピードとセキュリティとのバランスを鑑みた管理体制についての一つの答えがコラボレーション型の組織である。IT部門としてセキュリティを担保することは勿論ですが、デジタルイノベーションを経営層から求められることも多く、ある程度のSaaS利用の自由を与えながらも、一元化された利用SaaSのデータベースを元に、SaaSの全体利用状況をIT部門が把握できている状態を指します。このような**部門利用のSaaSを推進しながらも、IT部門が把握できている状態**を、USでは「**Business-led IT**」と呼ばれ、一説ではビジネスの成功に不可欠と言われています。



ビジネス(事業部)が主導するITの活用 Business-led IT

Information Technology

10 Key Changes to Drive Business-led IT Value

ON-DEMAND

1 hour

Business-led IT needs to be normalized, professionalized and integrated into an enterprisewide information and technology operating model. This requires adapting the role of the CIO and the IT organization, as well as making changes to IT governance. The CIO must establish some guiding principles to ensure value is delivered and the capability accelerates digital transformation. Failure to do so will introduce substantial risk and actually slow the execution of strategy. In this complimentary Gartner webinar, we reveal 10 key changes to leadership, governance and the operating model that will ensure value and mitigate the risks.

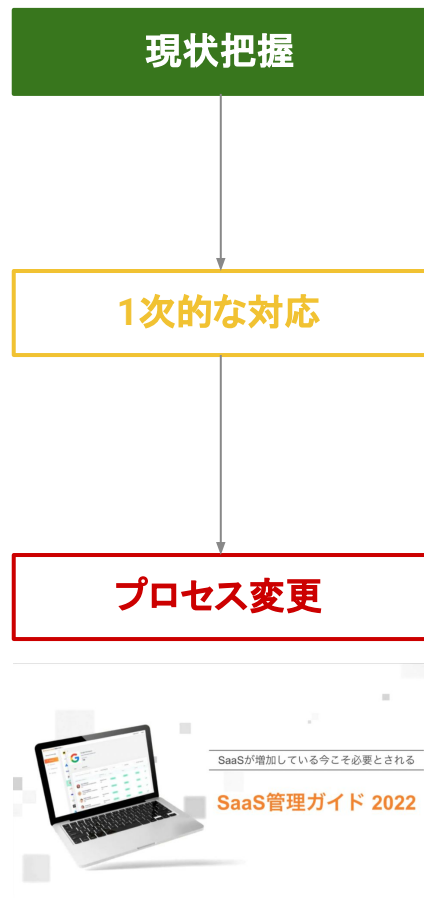
Questions about watching? Email us: gartnerwebinars@gartner.com

参照: 10 Key Changes to Drive Business-led IT Value
<https://www.gartner.com/en/webinars/43041/business-led-it-shorten-time-to-value-and-mitigate-the-risks>

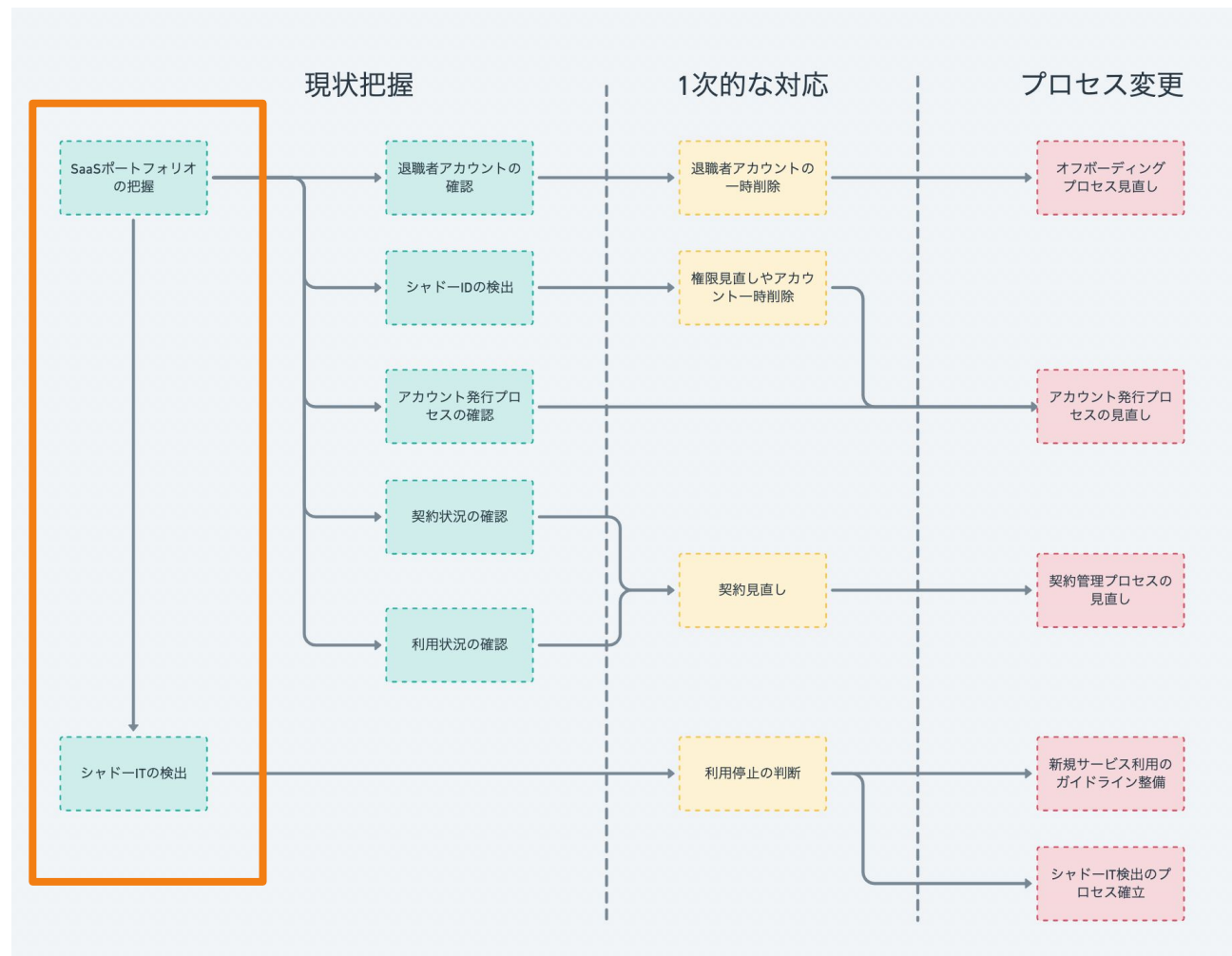
社内で301のSaaSを利用する「これまで」のマ ネーフォワードのSaaS管理

SaaS管理ロードマップ

最初に取り組むのは現状把握から



詳しくはSaaS管理ガイドもご参考ください。



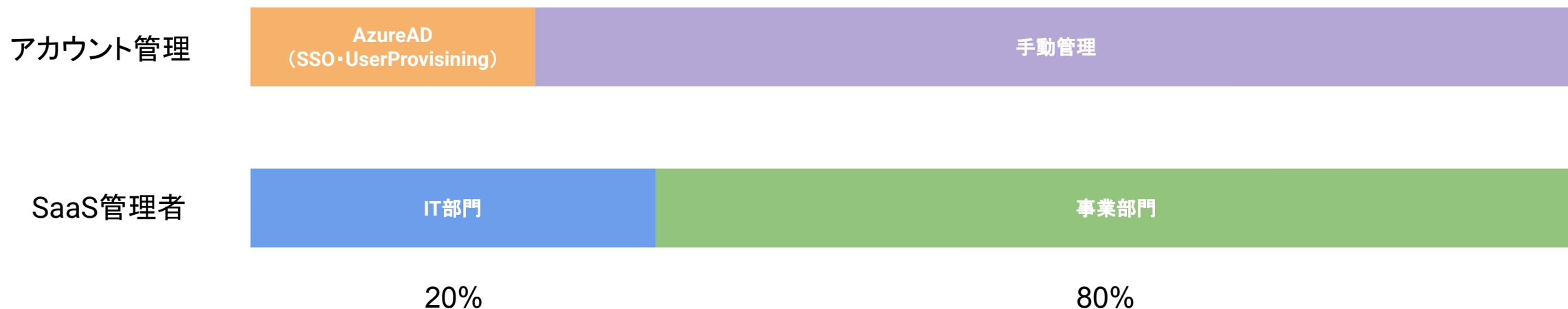
「これまで」のSaaS管理

マネーフォワードのIT部門では業務スピードを重要視し、事業部や部門が業務に必要なSaaSは自分達で選定/導入/運用を実施。

基本方針

- ・IT部門では全従業員が利用するSaaSの管理
- ・事業部門は事業部内で利用するSaaSの管理
- ※ SaaSの管理とは予実管理・契約管理・支払管理・アカウント管理など

→結果として、利用SaaSの数は300超え



SSO/UserProvisioning対応しているSaaSはIdP/iDaaSでアカウント管理を実施

「これまで」のSaaS管理における課題

・デザインツールの利用料が1年で4倍に

現場で利用するシーンが急増しており、また従業員がセルフで課金アカウントに変更可能なツールであった。現場主導のSaaSではIT部門が利用状況を把握できていない為に発生した。

・退職者アカウントの削除漏れの発生

iDPで管理できていないSaaSによる退職者アカウントの作業不備が発生。特に他部署からIT部門に移管されたSaaSやSaaS導入者が退職しているケース、或いは部門利用におけるSaaSなど、SaaSの管理者が曖昧になりがちでこのようなケースが発生しやすい傾向にある。

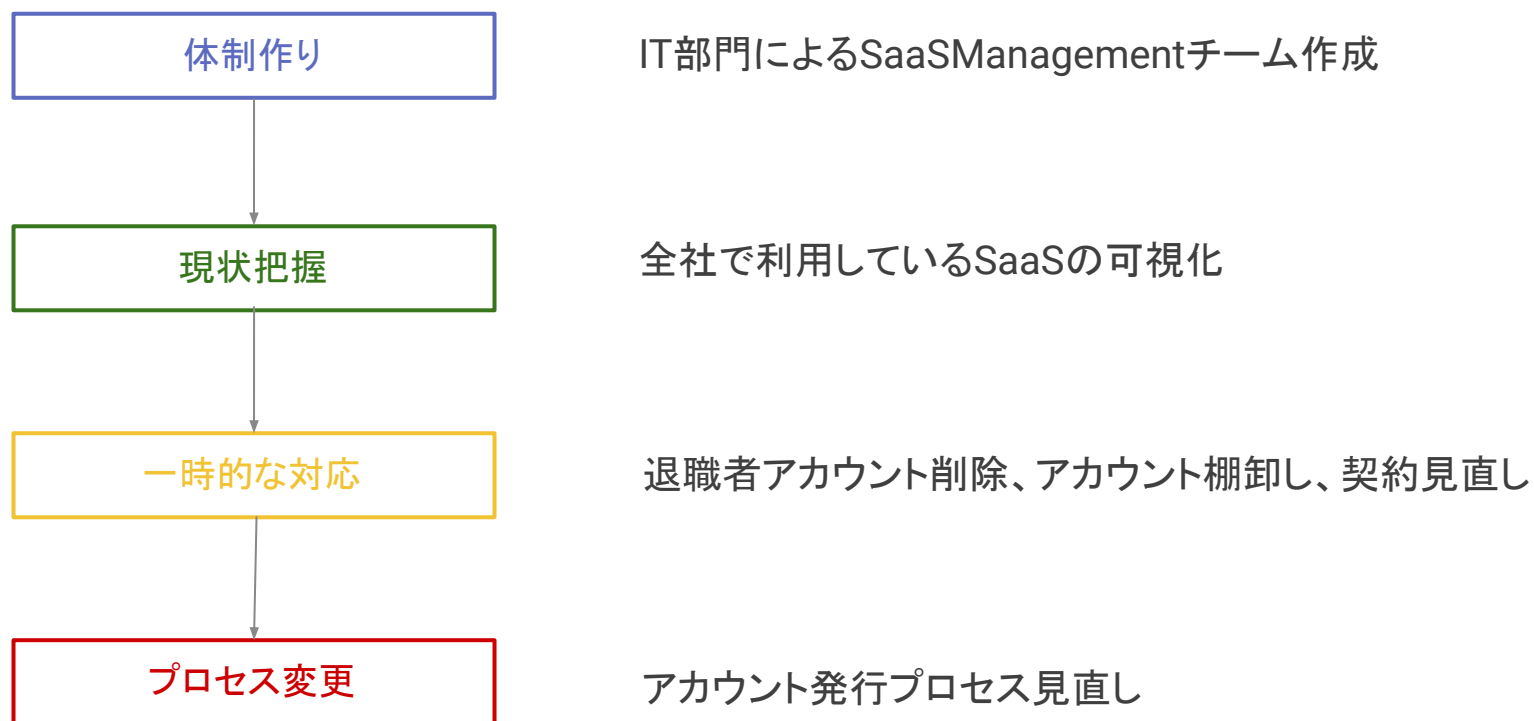
→SaaS管理は想定以上に実施できておらず、
SaaS管理の見直しを実施。



社内で301のSaaSを利用する「これから」のマ ネーフォワードのSaaS管理

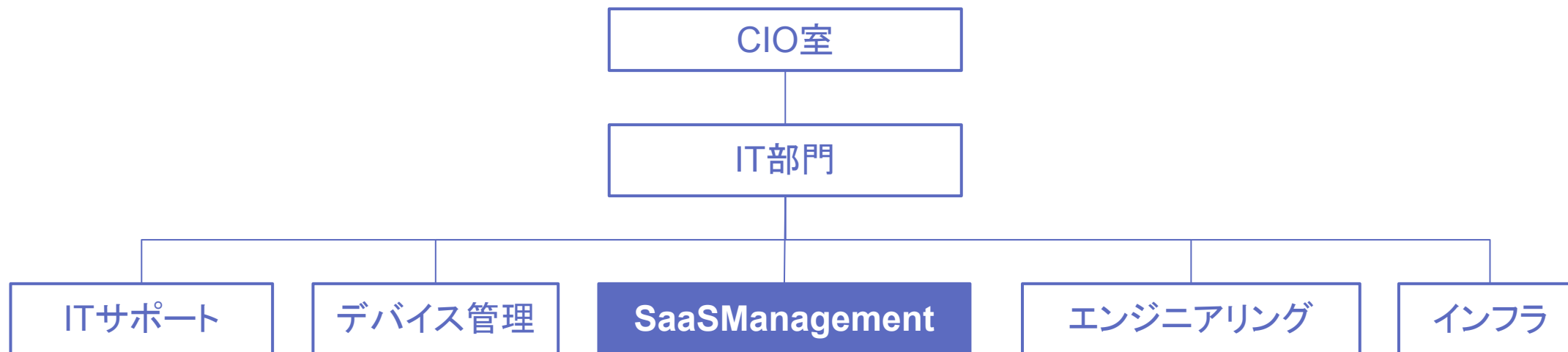
「これから」のSaaS管理:ロードマップ

SaaS管理の見直しに伴い、以下のロードマップを作成し、専門チームの体制と現状の把握を実施。



SaaS管理:体制作り

マネーフォワードでは利用しているSaaSの数が多い為、
IT部門配下にSaaS管理専門とした「SaaS Managementチーム」を組織化。



SaaS管理: 現状把握(全社SaaS可視化)

(1) スプレッドシートでSaaSリスト作成

※ 会計データ、アカウント申請データ、社内wiki、Slack、Google認証履歴、ヒアリングなどを元に作成を実施。

(2) リストを作成した結果301個のSaaSの利用を確認

(3) SaaSポートフォリオを把握



(4) 数が多い為にまずはIT部門管理のSaaSから詳細な可視化を実施

SaaS管理：現状把握 (IT部門管理SaaSの詳細な可視化)

スプレッドシートにて、SaaS管理に必要な項目を追記し、全てのSaaSにおいて現状況を記入。
横並びで可視化することで、出来てる事・出来てない事の把握が可能。

※マネーフォワードで実際に可視化した際のスプレッドシート

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	対象	ツール名	契約内容	FY22予算見通し	支払処理	アカウント追加方法	退職アカウント削除	アカウント棚卸	SSO対応	SCIM対応
2	全従業員	Google Workspace	非公開情報							
3	全従業員	Slack								
4	全従業員	Box								
5	全従業員	Kibela								
6	全従業員	ACALL								
7	CIO室	Halp								
8	利用希望者	DeepL								
9	利用希望者	ASANA								
10	利用希望者	FIGMA								
11	利用希望者	AdobeCC								

SaaS管理: 現状把握 (CIO室管理SaaSの詳細な可視化)

The screenshot shows a dashboard for SaaS management. On the left is a navigation menu with items: マネーフォワード, サービス (highlighted), アカウント, インテグレーション, and 設定. The main content area is titled 'サービス' and displays a summary table and a list of services.

サービス	ワークスペース	アカウント
40	46	14501

サービス/ワークスペース	アラート	アカウント
Slack Money Forward, Inc.		2535
Rollbar moneyforward	▲ 1	344
GitHub moneyforward		804
Asana 2 ワークスペース	▲ 22	706
Heroku 2 ワークスペース	▲ 1	103
Zenhub moneyforward		210
Miro		

恒久的な把握の為、マネーフォワードのIT管理部門で管理しているSaaSについては、スプレッドシートから「マネーフォワードadmina」へ移管を実施。

現状把握の為の退職者の残アカウントの把握が簡単に可能。

SaaS管理: 一時的な対応(退職者アカウント削除)

現状把握を終え、一時的な対応を実施。退職者アカウントが残っていたSaaSの退職者アカウントを全て削除。「Admina」の画面上からデプロビジョニング可能なSaaSについては削除 + SaaS管理画面から手動削除を実施。

The screenshot displays the Admina SaaS management interface. On the left, a sidebar menu includes 'マネーフォワード', 'サービス', 'アカウント', 'インテグレーション', and '設定'. The main content area shows a search bar and a list of services: Slack, Rollbar, GitHub, Asana, Heroku, Zenhub, Miro, Zoom, and カオナ. The 'Rollbar' service is selected, and its 'アカウント' (Accounts) tab is active. A table lists user accounts with columns for 'ユーザー / メールアドレス', 'ワークスペース', 'ユーザータイプ', 'ロール', 'ステータス', '2FA', and '操作'. Three accounts are selected, and a '削除' (Delete) button is visible. A large watermark '非公開情報' (Non-public information) is overlaid on the table.

ユーザー / メールアドレス	ワークスペース	ユーザータイプ	ロール	ステータス	2FA	操作
<input checked="" type="checkbox"/>						
<input checked="" type="checkbox"/>						
<input checked="" type="checkbox"/>						
<input type="checkbox"/>						

SaaS管理: 一時的な対応(アカウント棚卸)

多額の利用料を支払っていたデザインツールのアカウント棚卸を実施
LastActivityの日時を見て利用していない場合は強制削除を実施(Viewer-Restrictedに降格)

Product: All ▾ | Account type: All ▾ | Role: All ▾ | Last edit: All ▾ | New since last invoice

🔍 Search users | 👤 Invite users | 📄 Request full CSV

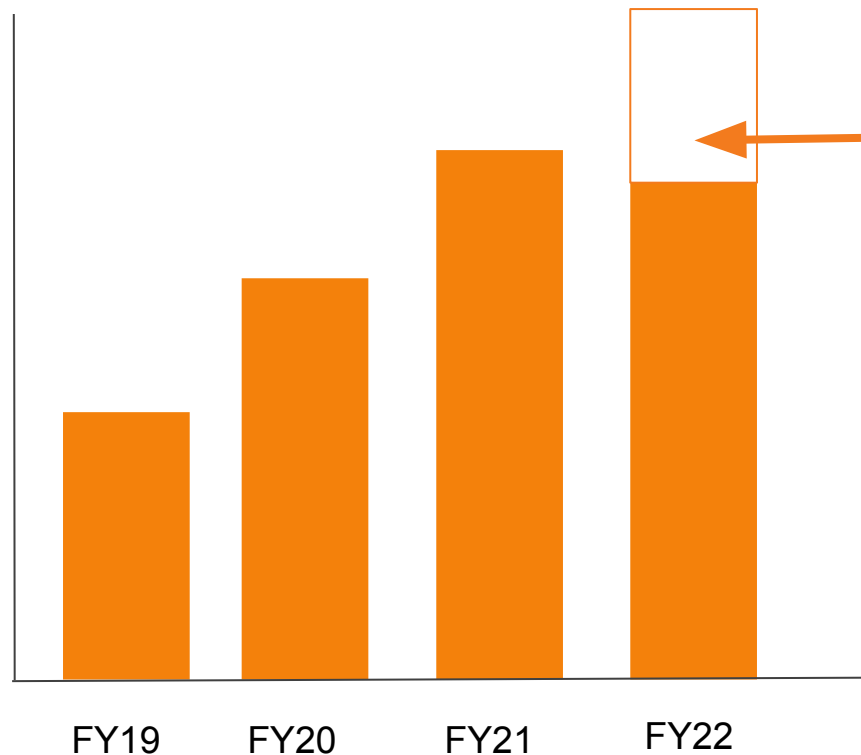
<input type="checkbox"/> Name ▾	Last active	Last edit	Design Role	FigJam Role	
非公開情報	4 hours ago	4 hours ago	Editor ▾ Jan 31, 2020	Viewer ▾	⋮
	Last month	-	Viewer ▾	Viewer ▾	⋮
	11 days ago	11 days ago	Editor ▾ Oct 12, 2021	Viewer ▾	⋮
	11 hours ago	11 hours ago	Editor ▾ Dec 02, 2020	Viewer ▾	⋮
	2 hours ago	2 hours ago	Editor ▾ Dec 03, 2021	Viewer ▾	⋮
	2 months ago	5 months ago	Viewer ▾	Viewer ▾	⋮
	9 hours ago	-	Viewer ▾	Viewer ▾	⋮

SaaS管理: 一時的な対応(アカウント棚卸)

アカウント棚卸できていなかった他のSaaSも以下の作業を実施

- ・「Admin」or SaaSへログインし、LastActivity見て強制的に削除(3ヶ月を基準に)
- ・Slackに棚卸チャンネル作成してアカウント保持者を招集し、必要有無を確認して削除。

ライセンスコスト



想定を上回る
年間数百万レベルの
コスト削減を実現

棚卸実施したSaaSの一例

IT専門家向けのオンライン業界誌の TechRepublicによると、企業のソフトウェアの利用において「40%の無駄なライセンス費用が発生している」との調査結果がでている。



US/UK waste total: \$34 billion

参照: TechRepublic『Report: Unused enterprise software is costing businesses a fortune』
<https://www.techrepublic.com/article/report-unused-enterprise-software-is-costing-businesses-a-fortune/>

SaaS管理: 一時的な対応(契約見直し)

まずは解約の可能性も踏まえ、月額利用から開始することをお薦めする。その後、利用状況などを踏まえ、運用に乗っているSaaSは年額課金に変更することでコストを削減します。また、複数年契約に切り替えることで更なるコスト削減を実現しました。



Before 継続的に利用するサービスでも短い契約期間でコスト削減の余地あり

SaaS A 導入直後

SaaS B 運用に乗っている

SaaS C



After 継続して利用するSaaSは積極的に契約期間を見直しコストダウン

SaaS A 導入直後

SaaS B 運用に乗っている

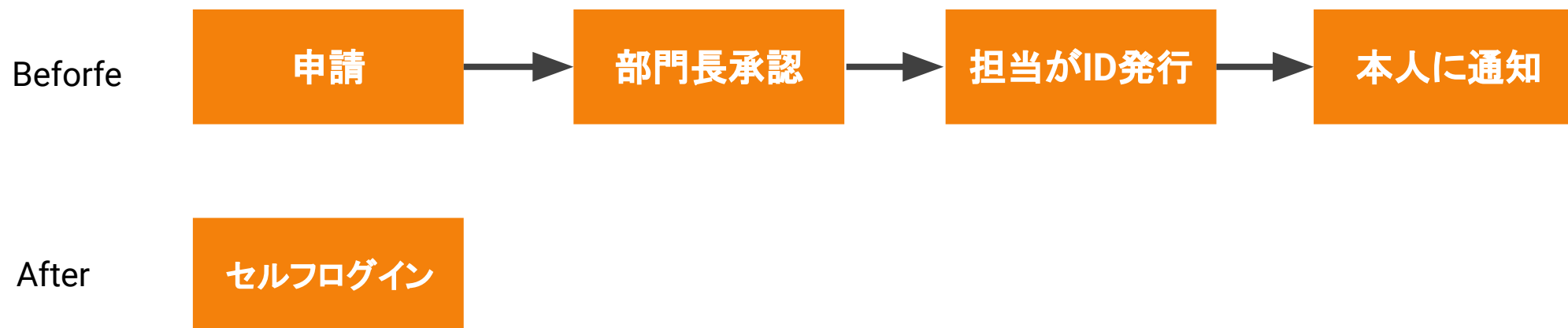
SaaS C

数年間継続利用の見込み

SaaS管理: プロセス変更 (アカウント発行プロセス見直し)

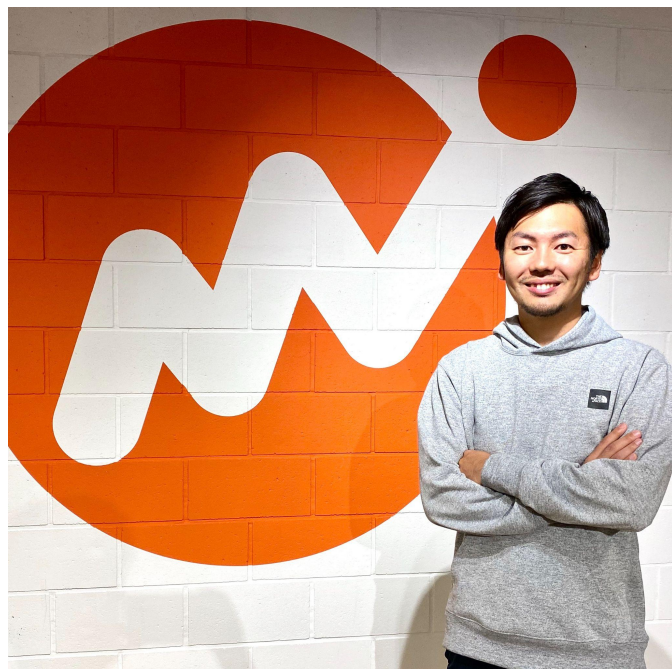
従来のアカウント発行のワークフローだと、部門長の承認プロセスを経て、アカウントが発行される仕組みであった。これは申請画面にライセンス単価を記載し、承認者に役職者を入れることでコスト意識を高める意図があったが、しかしながら申請者は業務上、必要なものを申請するのであり、ライセンス消費の抑止力には寄与できていなかった。

そのため、SaaS Managementチームによる定期的なアカウントの棚卸しを前提に、従業員(ユーザ)にとっての効率化を考え、以下のフローへ変更を実施。



※ SaaS Managementチームで棚卸しを定期的実施する運用とセットで一部のSaaSにおいてセルフログイン開放

ホワイトペーパー監修者の紹介



株式会社マネーフォワードCIO

マネーフォワードi株式会社 取締役

高野 蓉功

2006年にヤフー株式会社に新卒入社。社内システムの開発、運用、インフラ構築などに従事しその後エンジニアチームのリーダーとしてサイバーテロ対策、情報システム戦略、情報システム部門の部長として社内IT環境のモダン化を推進。2019年9月に株式会社マネーフォワードに入社。情報システム部門の責任者として社内IT環境の整備やマネーフォワードグループ全体の情報共有基盤の構築などを行う。

**SaaSの可視化と管理対応を実現
マネーフォワード Admina とは**

Adminaの機能概要

SaaSの可視化だけでなく、SaaSアカウントの退職者アラート、削除のオートメーションなど
SaaS管理における様々な機能があります。

< 業務効率化 >

SaaSの一元管理/アカウント管理



SaaS軸で、利用SaaSの一覧情報を可視化します。
権限情報・ステータス・他要素認証でのログイン有無も可視化し、従業員/社外/システム(ML)など自動で判定します。

< 業務効率化 >

アカウント発行/退職者削除



ご利用のSaaSにアクセスすることなく、Admina上で、アカウント発行や、退職者などの不要なアカウントを削除することができます。

< セキュリティ強化 >

シャドーITの検知



Admina上で連携可能な「社内で利用されているSaaS」を可視化。またAdmina上で非連携のSaaSも利用者を特定した状態で検出します。

< セキュリティ強化 >

退職者アカウントの自動検知



Admina上で、退職者などの不要なアカウントを自動で判定、検出し、アラート通知します。

< コスト削減 >

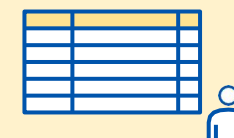
SaaSコスト削減効果



非アクティブなSaaSアカウントを検出し、アラートを通知することで、長期間使われていないアカウントを洗い出し、コスト削減余地を提案します。

< コスト削減 >

自動連携によるSaaSコスト管理



会計ソフトや経費精算/支払請求書ソフトと連携することでSaaSに関わるコストをAdminaで可視化ができます。

Adminaが選ばれる理由

連携SaaSのカバレッジの広さや、アカウント管理も導入にかかる時間も非常にスムーズで効果をすぐ実感いただけます。

メリット1

連携SaaSが**240以上**

...

Moneyforwardの技術力で、自動で連携できる SaaSは240以上。
随時、連携できる SaaSが増えています。**カバレッジの高さが特徴です。**
連携に対応していないオンプレなどのシステムも手動で登録が可能です。

メリット2

不要なSaaSアカウントの
コスト削減が可能

...

SaaSのLast Activityを検出し、長期間アクセスのないアカウントを検出します。
利用実態の洗い出しによるコスト削減効果や、棚卸しの効率化が見込めます。

メリット3

通知をベースに
退職者削除も**3**クリックで完結

...

退職者アカウントの消し忘れをアラートの通知により防止します。
常に管理画面にアクセスする必要はなく、アラート起点でシンプルな運用が可能です。



ご導入企業様



導入事例: 株式会社Speee 様



SaaS連携数の多さと、サポートの早さ・手厚さによる安定性

業種	情報・通信業	従業員数	301 ~ 500名
----	--------	------	------------

課題

- アカウント状態を最新に保つことが困難
- 漏れが発生してしまう。きっちりやろうとすると、工数がかかってしまう。

課題詳細

- 事業の発展にはSaaSの利用が欠かせないため、最低限のセキュリティチェックの上、SaaS利用を各事業部で積極的に利用するように促進していました。
- その反面、利用SaaSが増えて多種多様になり、アカウントの管理シートとサービスの状態を最新に保つことが困難になって、工数も大幅にかかっていた。

導入理由

- SaaS連携数の多さ(カバレッジの広さ)
- サポートの早さと手厚さによる安定性

導入理由詳細

- 対応サービスの多さは決め手の一つ。
Adminalは150以上のサービス(*インタビュー当時)に対応して、毎週のように新機能が追加されている。
- 一元管理により工数削減のために導入したのに、障害対応で工数がかかると本末転倒になるので、運用における安定性は非常に重視していた。

導入効果

- SaaS管理の運用フェーズが確立できた
- API利用で二次利用が便利
- 退職者のオフボーディングの工数削減

導入効果詳細

- アカウントの一元管理および、退職者のアラート機能をきっかけに確認する運用のフェーズが確立できたので、期待どおり効果を上げています。
- APIを利用して取得した情報を、社内の別の情報と突き合わせて二次利用できることも便利。
- 社内で利用しているSaaSが網羅されているので、退職者のオフボーディングの工数削減につながった。



導入事例：株式会社Wantedly 様

情シス専任不在の中で、運用コストかけずにSaaS管理



業種	情報・通信業	従業員数	101 ~ 300名
----	--------	------	------------

課題

- 事業部のSaaS管理が徹底できていない
- 退職から削除までのタイムラグが発生

課題詳細

- 便利なSaaSは積極的に利用することが、会社の基本方針。そのため、部門ごとに導入しているが、簡単に利用できるため、管理があまりできていなかった。
- 数ヶ月に一回程度の棚卸では、退職してからアカウントが削除されるまでタイムラグが発生しており、セキュリティリスクも懸念があった。

導入理由

- 運用のコストが抑えられる
- 退職者のチェック、アカウント管理が効率的にできる

導入理由詳細

- 情シス専任がいないうち、SaaS管理はしたいが、運用に時間がかからないため、運用コストが抑えられるという点に魅力。
- 退職者のアカウントが自動で同期されるので、漏れなく退職者のアカウント発見と、削除、管理が楽にできる。

導入効果

- 退職者をリアルタイムで削除・棚卸の効率化
- シャドーIT機能で、社内のSaaS利用状況を把握

導入効果詳細

- タイムラグなくSaaS管理ができるようになった
- 今まで退職チェックリスト上で、手打ちで退職者アカウントのチェックを行っていたが、Adminaの管理画面からすべて確認ができて、便利。
- シャドーIT機能で、サービス連携の提案をしてくれるので、そこで「こういうSaaSを利用しているのか」と把握できるのもありがたかった。



導入事例: アルプ株式会社 様

コア業務にリソース集中でき、事業成長のさらなる加速が実現

Alp, Inc.

業種	情報・通信業	従業員数	51 ~ 100名
----	--------	------	-----------

課題

- SaaS管理が手動で、業務負荷が高い
- Notionで契約SaaSの管理をするが、リアルタイムに把握することが困難

課題詳細

- 入社時は付与するSaaSアカウントを、チェックリストを手動で埋めながら発行しており手間。
- 退職処理は業務委託なども多く、入退社が頻繁にあり、チェックリスト通りにアカウントが削除されているかどうか都度確認する必要があり、業務負荷が高い。

導入理由

- リアルタイムでSaaS状況を可視化できる
- 特別なオペレーションなく、そのまま利用できる

導入理由詳細

- 手動での作業が不要で、リアルタイムで可視化ができることで、作業工数が大幅に削減できると感じた
- 事業部管理もあるため、情シスと各事業部が同時に同じツールを確認でき、確認工数が削減できるため

導入効果

- 最新情報が自動同期され、棚卸し・可視化がスムーズになった
- コア業務に集中でき、事業成長スピードがアップ

導入効果詳細

- 自動で最新情報が同期され、課題であるアカウントの棚卸しや、可視化については期待通り解消できた
- セキュリティ強化が必要なフェーズだったため、シャドーIT機能で、サービスの利用状況を迅速に可視化でき、セキュリティ強化に貢献できている。





Money Forward Admina

[サイトを詳しく見る](#)

[無料で試してみる](#)



マネーフォワード株式会社 Admina担当

MAIL : bizdev@i.moneyforward.com

URL : <https://i.moneyforward.com/>